

四つ木・立石に設置された『キャプテン翼』キャラクター像

※①～④が四つ木地区、⑤～⑦が立石地区
©高橋陽一/集英社

「ロベルト本郷と大空翼」像
(めだかの小道)

「中沢早苗」像
(葛飾郵便局前)

「若林源三」像
(立石みちひろば)

「大空翼」像
(立石一丁目児童遊園)

「岬太郎」像
(渋江公園)

「日向小次郎」像
(四つ木公園)

「石崎了」像
(四つ木駅前ポケットパーク)

「大空翼」像
(平成25年3月完成 四つ木つばさ公園)

魅力ある観光まちづくり

～『キャプテン翼』の仲間に出会えるまち、四つ木・立石～

葛飾区ではこれまで、「寅さん」「両さん」といった全国的にも有名な人気キャラクターを起用し、地域活性化を図ってきました。平成25年3月には、漫画『キャプテン翼』の作者、高橋陽一さんが四つ木出身であることにちなみ、主人公の“大空翼”像を四つ木に設置。

さらに7体のキャラクター像を、平成26年3月に四つ木と高橋陽一さんの出身校である都立南葛飾高等学校のある立石に設置しました。

人気キャラクターで町おこし

古くから江戸郊外の行楽地としてにぎわってきた葛飾区には、都内唯一の水郷景観を持つ都立水元公園や、花菖蒲の名所として知られる堀切菖蒲園、昭和レトロを感じさせる風情ある立石駅周辺商店街など観光客に人気の地域が数多くあります。加えて近年では、国民的な人気を誇る映画や漫画・アニメの舞台となったことで、幅広く人々に親しまれ、国内だけでなく海外からも多くの人が訪れています。

映画『男はつらいよ』の舞台として知られる柴又の「寅さん」、人気漫画『ちびまる子ちゃん』の「両さん」や『キャプテン翼』など区には全国的にも有名なキャラクターがあり、区ではこうしたキャラクターを観光資源のひとつとして活用することで、地域活性化に結び付けようと取り組んでいます。そうして観光の観点から地域に光を当て、観光客を誘客することで、まちにぎわいや活気を呼び起こそうとしています。

寅さんゆかりの地、柴又は、柴又帝釈天の参道を中心に寅さんの像、葛飾柴又寅さん記念館、山田洋次ミュージ



「葛飾柴又寅さん記念館」では、実物資料や模型、映像で寅さんの世界を楽しむことができる



柴又駅前寅さん像は、旅立つ寅さんが妹のさくらを振り返る姿を表している



亀有駅北口の警察官姿や南口の祭り半纏姿の両さん像をはじめ、亀有には現在14体の像があり、まちににぎわいと活気をもたらしている



「山田洋次ミュージアム」は「葛飾柴又寅さん記念館」の向かいにある別館2階に併設。両館合わせて訪れる観光客も多い

©秋本治・アトリエびーだま/集英社

アムがあり、連日多くの人が訪れている。一方、週刊少年ジャンプ連載の「こち亀」はギネス記録を更新し続けている長寿漫画であることから、いまだ根強いファンの支持を受けています。舞台となる亀有には、主人公である両さんを中心にキャラクター像が14体あり、人気スポットとなっています。地元商店街では「銅像めぐりマップ」を作成し配布していますが、14体の像をめぐると亀有を一周でき、まちを楽しめることから、「こち亀まちめぐりツアー」が実施されるなど大変人気です。

平成25年には訪日外客数は過去最高の1036万人に達しました。そのうちの約6割を韓国・中国・台湾など東アジア地域からの観光客が占めていますが、区を訪れる観光客もアジア地域からが多く、台湾で「こち亀」のアニメが放送された影響もあり、亀有には台湾からの観光客が増えています。区では今年度新たに、「こち亀」の外国語版銅像めぐりマップ（中国語・英語・韓国語）を作成し、亀有を訪れる海外からの観光客に区の魅力をPRしていく予定です。

平成25年に実施された「第14回葛飾区世論調査報告書」によると、「葛飾

区に観光客を誘致するため特に重要と思うものは何ですか」という問いに、最も多かったのが「寅さん、両さん、大空翼などのキャラクターの活用」（40・6パーセント）という回答でした。区民もこうしたキャラクターを生かした観光振興が重要であると考えていることが明らかになっています。

海外でも人気の『キャプテン翼』を起用

このように区では、区ゆかりのキャラクターである寅さんや両さんと地域を結び付けるという独自の取組で区外から観光客を呼び込み、回遊性を高めて滞在時間を増やそうと観光振興に取り組んできました。

さらに平成25年3月には、作者の高橋陽一さんが四つ木出身であることから、海外にも根強い人気を誇るサッカー漫画『キャプテン翼』を活用することとし、主人公である大空翼像を四つ木に設置しました。

同作品は昭和56年に週刊少年ジャンプに連載を開始



©高橋陽一/集英社

根強い人気を誇る『キャプテン翼』

「ボールはともだち」を信条とするサッカー少年、大空翼の成長と活躍を描く『キャプテン翼』は、昭和56年に週刊少年ジャンプ誌にて連載を開始し、全国の子どもたちに空前のサッカーブームを巻き起こしたサッカー漫画の金字塔。“日本をワールドカップで優勝させる”という夢を抱く翼が、多くの仲間やライバルたちと激闘を繰り広げるストーリーや記憶に残る数多くの必殺シュートなど多彩な魅力は、日本に留まらず世界中の多くの人たちを魅了している。今年開催予定のワールドカップを前に、雑誌「ランドジャンプ」での新連載が開始されており、6月には「キャプテン翼展」も開催予定。

した、サッカー少年、大空翼の成長を中心とした物語です。日本国内だけでなく世界中でアニメ放映もされており、国内のプロサッカー選手はもちろんのことサッカー元フランス代表のジダンさんなど海外のスタープレイヤーも同作品の影響を受けていると公言しています。



銅像7体完成記念除幕式典に合わせて、四ツ木駅前ではまいろーど四つ木商店街による案内看板が披露された。足元にはサッカー元日本代表の北澤豪さんの足型レリーフが設置されている。写真は地元の子どもたちから花束を贈られる高橋さんと北澤さん



『キャプテン翼』銅像7体完成記念除幕式典では、小学生以下を対象とした南葛SCによるサッカーゲームコーナーや、サッカーボールを用いてパフォーマンスを行うフリースタイルフットボールの実演など、さまざまなイベントも実施された



雑誌「東京人」（平成24年3月発行）

でのインタビューで高橋さんが「キャプテン翼の銅像ができるといいですね」とコメントしていたのを受け、区が地域活性化への取組として提案したことで実現しました。

高橋さんは高校3年生の時にアルゼ

ンチンで行われた第11回FIFAワールドカップをテレビで観戦して、サッカーの持つ自由さや世界中の人が熱狂する姿に感動したことが『キャプテン翼』執筆のきっかけとなりました。また、作中で翼が通う南葛小学校、南葛中学校は高橋さんの出身校である「都

立南葛飾高等学校」にちなんで名づけられています。「ずっと葛飾で暮らしてきたので、子どもの頃から遊び回っていた荒川のイメージなど漫画のいろいろな部分が葛飾の影響を受けている」と高橋さんは話します。

四つ木つばさ公園に設置された大空翼像は地域の顔となり、区内外から多くの人が訪れています。また、海外メディアからの取材を受けたり、高橋さんがヨーロッパへ取材に出かけた際に現地の関係者から銅像について聞かれるなど、四つ木地域の認知度は向上しています。

地元のまいろーど四つ木商店街でも従来のデザインを一新し、『キャプテン翼』のイラストが入ったポイントカードを導入しました。平成25年12月のポイントカードのお披露目イベントではカードを1000枚配布しました。イベント後も「キャプテン翼のカードがほしい」と来店する人が多くいるそうです。

また、地元の洋菓子店では、サッカーボールを型どり、パッケージにキャラクターをデザインしたお菓子を販売し、地域をPRしています。

さらに、平成25年12月から、大空翼の所属チームと同じ名前の「南葛S

C」という社会人サッカーチームが誕生し、Jリーグをめざしています。サッカースクールの開校などのほか、地域のイベントにも参加し、まちづくりに貢献しています。

漫画『キャプテン翼』に親しんだ層は30歳代・40歳代のファミリー世代が多く、特に商店街近隣では昨今の新築マンションブームでこうしたファミリー世代の新規流入が目立っていることもあり、ファミリー層が地元商店街に足を向けるきっかけとなることも期待されています。

さらに仲間たちの像を設置

区は、平成25年に設置した大空翼像に続き、今年3月にはさらに7体のキャラクター像（等身大像1体、小型像6体）を四つ木・立石地域内に設置しました。渋谷公園に設置された岬太郎像は等身大の約150センチあり、3月16日には同公園にて関係者、『キャプテン翼』のファンらが見守る中、完成記念除幕式典が開催されました。

銅像にするキャラクターや各像のポーズは区の意向もふまえ、漫画のシーンの中から高橋さんが決定したそうので、『キャプテン翼』ファンにとっては各像がどのシーンなのか思いをめぐらす

のも楽しみのひとつになるでしょう。銅像が増えたことに対し高橋さんは「サッカーはチームスポーツなので、今回設置された像以外にもこれからもっと増えていくといいなと思う」と話しています。

一方、式典に参列した青木区長は、「主人公以外の仲間たちの像が設置されることで『キャプテン翼』の世界が広がり、訪れる人が楽しめる」と期待をこめます。区としても今後、チームメイトやライバルたちのキャラクター像を設置し、地域の回遊性を高めていきたいとの方向です。

完成記念除幕式典に合わせ、まいろーど四つ木商店街でも各像の位置図や商店街情報などを掲載した案内看板を四つ木駅前設置しました。さらにその足元には、区内の修徳高等学校を卒業したサッカー元日本代表の北澤豪さんの足型レリーフを設置すると同時に、サッカーボールモニュメント付きLED街路灯を商店街に新設しました。

さらに四つ木駅前から葛飾郵便局前までのバス通りを「つばさ通り」と名付けるなど、地域を訪れる観光客が銅像めぐりをしながら『キャプテン翼』の世界を楽しめるよう取り組んでいます。一方、立石駅通り商店会でも、銅

像に結びつけたイベントなどを計画しています。

また、6月からは『キャプテン翼』のラッピングバスが運行予定です。銅像が設置されている立石・四つ木を通る亀有駅〜新小岩駅、市川駅〜新小岩駅間を運行している京成タウンバスと四つ木を経由する金町駅〜浅草〜上野間を運行している都営バス、各1台にラッピング広告を行う予定となっています。区は、こうしたキャラクターを生かした取組や地域のお土産を作成する四つ木及び立石の商店街に助成を行っています。

さらに、銅像設置場所を記した「四つ木・立石『キャプテン翼』銅像めぐりマップ」を作成しており、平成26年度にはこのマップをもとにした外国語版案内マップを制作する予定で、また全体の回遊性を高め、区外からも漫画ファンやサッカーファンを呼び込もうとしています。また、広報課では、フェイスブックやツイッターを活用して情報を発信し、区の魅力を広く伝えています。

このように地元と区、事業者が協働で地域の魅力をPRすることで多くの人が訪れ、活気にぎわいにあふれるよう観光振興に取り組んでいます。

『キャプテン翼』で地域活性化!



まいろーど四つ木商店街のポイントカード「キャプテン翼カード」。商店街で買い物をするたびにポイントがたまる

平成26年3月にまいろーど四つ木商店街により設置されたサッカーボールモニュメント付きLED街路灯



平成25年3月に四つ木つばさ公園に設置された大空翼像。設置後、四つ木を訪れる観光客が増加した



大空翼が所属したチームと同じ名前前の社会人サッカーチーム「南葛S.C.」。右端は作者の高橋さん



葛飾区に店舗を構えて42年になるパティスリーコートピキでは、同店で高橋さんが連載の打ち合わせを行っていたことにちなみ「勝利のゴール キャプテン翼サブレ」を販売開始し、『キャプテン翼』土産として人気を集めている

©高橋陽一/集英社